

生命の秘密を 解く鍵をもとめて

第11回

学習院大学では、
2008年に大学院生命科学専攻、
2009年に理学部生命科学科がスタートし、
2010年には活動拠点である南7号館が完成して、
生命科学の先端的な研究が行われています。



2012年4月21日(土) 14:00~17:00
学習院大学 中央教育研究棟 3F301

豊島区目白1-5-1 JR山手線目白駅(徒歩3分)
聴講無料、予約不要。多くの方々の御来聴をお待ちしています。

講演者



1. 東京海洋大学 大学院海洋科学技術研究科 准教授 吉崎 悟朗 「魚類生殖細胞を用いた発生工学:サバからマグロは生まれるか?」

サバがマグロの卵や精子を作るようになれば、100kgをこえる巨大なマグロの親を飼育する必要がなくなり、小型水槽でマグロの受精卵を生産することが可能になる。また、凍結細胞から生きた魚を作れるようになれば、絶滅が危惧されている魚種の遺伝子資源を半永久的に保存し、いつでも個体を作り出すことが可能になる。演者らの研究でこれらの話が現実のものになりつつある。本講演では、その方法と原理、展望を紹介する。



2. 大阪市立大学 大学院理学研究科 教授 宮田 真人 「肺炎菌, マイコプラズマのユニークな滑走運動」

昨冬から世界的な大流行となっているマイコプラズマ性肺炎。天皇陛下や愛子さまもかかれたこの肺炎は、「マイコプラズマ」という、細菌の中でも最も小さな微生物によって起こります。お医者さま方もあまりご存じないことですが、マイコプラズマは他のどんな生物とも異なる仕組みで宿主細胞のうえを歩き回ります。演者は15年間に渡ってこの仕組みの解明に取り組み、その研究は今まさに核心に迫ろうとしています。



3. 東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授 鷲谷 いづみ 「サクラソウからさとやまへ」

サクラソウの花の進化の謎を探るための遺伝子から生態系までをカバーした研究の途上、私は日本中の自生地をまわりました。サクラソウはさとやまを代表する植物であることを知るとともに、垣間見た日本の「さとやま」の生きもののゆたかさは、私をさとやまの生物多様性の保全・再生の研究に導きました。



4. 沖縄科学技術大学院大学 教授、京都大学名誉教授 柳田 充弘 (2011年度文化勲章受章者) 「ひとの老化と寿命をどう研究するか」

人間の老化・寿命にいかにして向かいあうかは21世紀の課題です。老化は病気ではないと言われますが、高齢者医療・介護が社会にとって最も重要なことは明白です。勃興する老化の科学において、誰もが認めるモデル生物はまだありません。また長寿化物質はあるのかという疑問にまだ答えられません。本講演では、このような問題を議論し、ひと血液メタボロームという手法と微生物細胞の長寿決定因子の追求を結び合わせる最近の研究を紹介します。

